**ハンドマイク街頭演説原稿例　　総務省接待問題・原発事故１０年**

　　二〇二一年三月一五日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、日本共産党です。本日はこの場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　みなさん、緊急事態宣言を再延長したにもかかわらず、新型コロナウイルスの感染状況は下げ止まったまま予断を許しません。この間、時短営業を柱とする政府の対策では、コロナの封じ込めに限界があることは明らかです。感染力の強い変異株の流行など感染再拡大が強く懸念されます。日本共産党は、検査能力に余裕がある今こそ、無症状者を発見・保護するＰＣＲ等検査を思い切って増やし、コロナを封じ込めることが不可欠と考え、政府に対し以下の３点を緊急に要請しました。一つは、高齢者施設等への社会的検査を医療機関、障害者施設などにも広げ、職員への週一回程度の定期的な検査と、その対象を利用者にも広げること、二つは、モニタリング検査を一日１０万人規模で実施すること、三つは変異株の疑いを確認する検査の割合を大幅に増やすことです。感染が落ち着いている今こそ、ワクチン接種と同時並行で、徹底した大規模検査を実施することによって、コロナを封じ込めていきましょう。日本共産党は、引き続きコロナ対策に全力を尽くします。

　みなさん、総務省の接待問題は、ＮＴＴによる接待疑惑が武田総務大臣ら政治家まで広がるなど、まさに政財官の総務行政の私物化ともいうべき様相になっています。国会では、東北新社やＮＴＴの社長など関係者が招致され、真相解明のための質疑が行われています。武田大臣は、国会審議でＮＴＴとの会合の回数を明らかにしないなど不誠実な態度に終始しています。菅首相の元秘書官だった長男の接待問題とあわせ、今回の問題についての菅首相の政治的責任は極めて重大です。日本共産党は、総務省の接待問題について、民間企業による接待によって総務行政が歪められていなかったか、引き続き真相究明に全力をあげていきます。

　みなさん、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故から１０年を迎えました。福島県の旧避難地域では、被災者のくらしと地域コミュニティーがずたずたに壊され、住民の孤立や貧困が深刻になっています。国の被災者切り捨てが進むなか、いまなお復興には程遠い状況です。日本共産党は、被災地の復興と生業（なりわい）の再建にむけ、国が責任もって支援を強化・継続するよう引き続き求めていきます。

福島第一原発では、いまなお４０００人規模で廃炉に向けた作業がすすめられています。しかし、先日の福島県沖地震で格納容器の水位が低下するなど損傷が拡大し、当初設定された２０年から３０年後の廃炉完了の道筋は全くみえてきません。それにもかかわらず、菅政権は原発再稼働に固執し、「原発ゼロ」の社会に背を向けつづけています。ひとたび原発事故が起これば、環境や社会にあまりにも多くの犠牲を生み出します。事故の収束も極めて困難です。日本共産党は、あらためて原発再稼働の中止を政府に強く求め、「原発ゼロ」の社会の実現へみなさんと力をあわせていきます。

最後に、スクープ連発の「しんぶん赤旗」が、いまメディアでも広く注目されています。この機会に「しんぶん赤旗」をぜひご購読いただきますようお願いしまして、この場所をお借りしてのうったえを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）